

第3節 類似自治体との比較検討

1 類似自治体との比較

本市の一般廃棄物処理システムについて類似都市と比較し評価を行う。評価は「システム指針」を参考とし、比較対象とする類似自治体を20万～30万人の同規模の市とする。

評価項目(指標)の算出方法を表2-19に、類似自治体との比較を図2-26に示す。それぞれの評価項目の指数は100を類似都市平均として、100以上となると、他市と比較して優れていることを示す。

表2-19 評価項目(指標)の評価と指数の算出方法

指標	指数化の方法	指数の見方
人口一人一日当たりごみ総排出量	$\{1 - (\text{実績値} - \text{平均値}) \div \text{平均値}\} \times 100$	指数が大きいほどごみ総排出量は少なくなる。
廃棄物からの資源回収率(RDF・セメント原料化等除く)	$\text{実績値} \div \text{平均値} \times 100$	指数が大きいほど資源回収量は高くなる。
廃棄物のうち最終処分される割合	$\{1 - (\text{実績値} - \text{平均値}) \div \text{平均値}\} \times 100$	指数が大きいほど最終処分される割合は小さくなる。
人口一人当たり年間処理経費	$\{1 - (\text{実績値} - \text{平均値}) \div \text{平均値}\} \times 100$	指数が大きいほど年間処理経費が少なくなる。
最終処分減量に要する費用	$\{1 - (\text{実績値} - \text{平均値}) \div \text{平均値}\} \times 100$	指数が大きいほど費用が少なくなる。

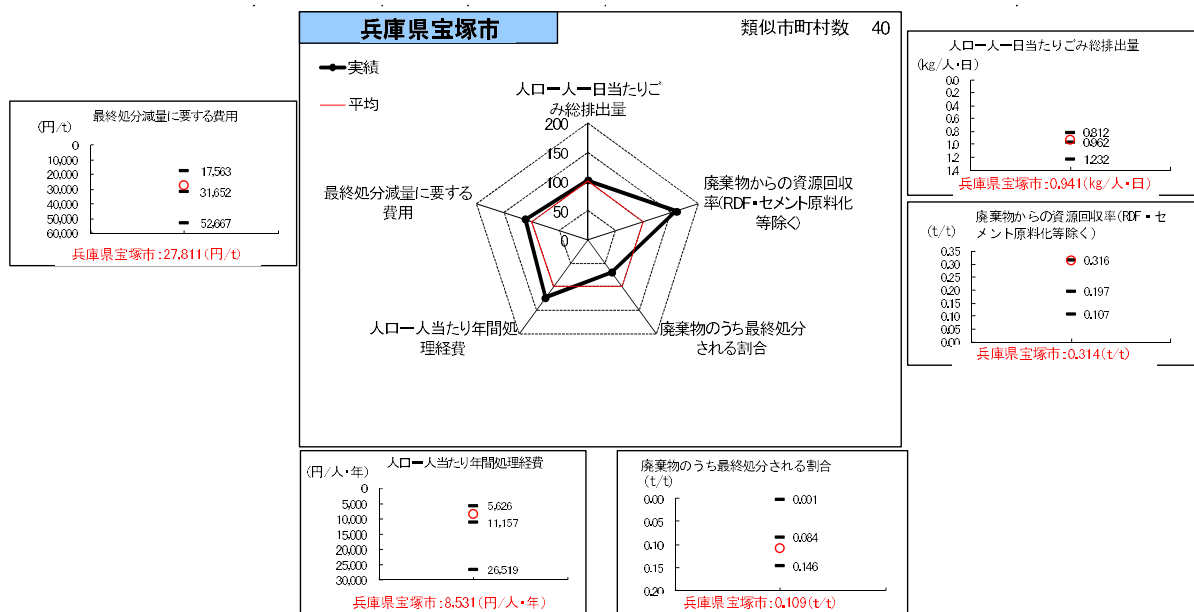


図2-26 類似自治体との比較 (2014年度)

2 類似自治体との比較による主な相違点

「1. 類似自治体との比較」の結果から、類似自治体との比較した主な相違点を次に示す。

①人口一人一日当たりごみ総排出量

本市における人口一人一日当たりごみ総排出量は941g/人・日となっており、類似自治体の平均値の962g/人・日を下回っている。

②廃棄物からの資源回収率（RDF・セメント原料化等除く）

本市における廃棄物からの資源回収率（RDF・セメント原料化等除く）は31.4%で、類似自治体の平均値の19.7%を11.7ポイント上回っている。

③廃棄物のうち最終処分される割合

本市における廃棄物のうち最終処分される割合は10.9%で、類似自治体の平均値の8.4%を2.5ポイント上回っている。

④人口一人当たり年間処理経費

本市における人口一人当たり年間処理経費（処理及び維持管理費）は約8.5千円で、類似自治体の平均値の約11.2千円を下回っている。

⑤最終処分減量に要する費用

本市における最終処分減量に要する費用は約27.8千円/tで、類似自治体の平均値の約31.7千円/tを下回っている。